

平成29年度 第1回学校関係者評価委員会及び学校活性化対策委員会 報告

1 日 時；平成29年6月27日（火）13：30～

2 場 所；本校視聴覚室

3 出会者；学校関係者評価委員兼学校活性化委員 5名，本校職員 15名

4 内容

- (1) 開会の言葉
- (2) 校長あいさつ及び委嘱状交付
- (3) 委員自己紹介
- (4) 本年度学校経営方針
- (5) 学校概況説明と本年度の目標（各課程15分ずつ）
- (6) 学校評価アンケート結果報告（通信制）
- (7) 質疑・意見交換
- (8) 閉会の言葉

5 協議

◎ 今年度の取組・重点目標等についての各課程主任からの補足説明

- ・ 「開陽通信制教育相談」「聞きあう会」昨年度実施してみて
「開陽通信制教育相談」・・・離島を除き7地区で12件の相談があった。30分の予定が1時間になることもある。この機会があって良かったという感想が多かったので、今年度は本校でも実施してこれまでに30件の相談があった。
「聞きあう会」・・・90分の設定だが、あつという間に時間が過ぎると思うほど保護者が話をしてくれる。
- ・ 定通合同進路ガイダンス・・・事前に希望をとって、大学・専門学校等に説明してもらう。始めてから5～6年になる。
- ・ 全日進路ガイダンス・・・本日、実施。事前に希望をとって、説明してもらう。大学・短大・専門学校など20数校参加する予定。
- ・ 通信制のAED講習会は7/4に実施予定。今までは職員のための研修であったが、今年度は生徒にも参加してもらうことにしており、とりあえず生徒会役員が参加する予定である。

◎ 学校関係者評価委員からの意見・質問等

- ・ 生徒と一緒に親も育てないと、先が見えないのではないかと？
保護者が学校に目が向いていれば、ずれがあっても卒業する。保護者の目が学校に向いていないとか子どもが不登校だったりすると親も学校へ行かない。学校は何もしてくれないと思っている。今学校ではこういうことをしているとか、この先どうなりますよとかといった情報を教えてほしい。保護者は子どもが高校に行ってくれていると安心するところがある。ところが、現実には子どもは

勉強の仕方を知らない、机に座れないという実態である。ちゃんとした字を書くという所から指導してほしい、成功体験を持っていないのでどうにか持たせてほしい。中卒ではこの世の中で働き生きていくのは無理で、高校を卒業しないと資格試験も通らない。

- ・ 小学校・中学校に比べて高校は保護者が学校に来る機会は少ないが、何か行事があれば学校に来れる。どういう状況で子どもが学習しているのか知らないなので、学校に来る機会を増やしてほしい。
- ・ 県民週間などであれば、学校に来て子どもの様子を堂々と見ることができる。保護者にも案内してほしい。
- ・ 開陽祭ではテレビやラジオの取材もあり、開陽高校の良さをアピール出来たと思う。
- ・ 7/31の西谷山夏祭りには、3課程の生徒会が参加する予定。
- ・ 開陽高校は地域に良くPRしているし、地域に溶け込んだ取組をしている。地域では、「開陽ここにあり」という感じがある。
- ・ 通信制ではなかなか難しいが、生徒だけではなく、家庭との共通理解を持った三者の関係を築いてほしい。
- ・ 中学校時代での不登校を経験して、開陽で頑張っている生徒は、どうしているのか？私立で登校できるようになったある生徒について、同校の先生から「放課後、よく話をしていますよ～」と言われた。
- ・ フレンドシップなどフリースクールでは真面目に勉強できるが、集団の中に入ると勉強できない生徒もいる。学業不振の生徒も先生が一人付くとやっていける。
- ・ 開陽祭で、生徒を見ていて、全体アート・年次アートなど、さまざまな場面で、自分がこれをすれば責任が果たせるだろう、片付けとか、考えて動いている生徒がいた。今年は50名を超える開陽祭実行委員が集まり、担当も驚いていた。行事を通して学校へ行く機会になっている。
- ・ ある漫画家が「月20万円稼げば生きていける」、何か資格を取るように言っていたが・・・
 - ① 定時制での資格で就職が決まるということはないが、履歴書に書ける。
 - ② 通信制は一般求人となるので、取得資格が就職に活かされているかわからない。
- ・ 生徒会役員をして成長した生徒がいる。中学時代は全欠。役員1年目は頑張りすぎて失速したが、2年目は調整していて成長を感じた。そのときどきで先生方が関わってくださっていると聞いた。
- ・ 資格については、能力の見える化や手応えを実感できる。緊張感もあるが、学校の定期試験とは違う緊張感である。資格取得に向けて努力することは生徒を成長させてくれる。
- ・ 全定で、①中学時代、欠席が多かったが、高校は通うことができた生徒に、卒業前に「どうしてうまくいったのか？」、②3年間ではなくそれ以上長くかかっても卒業した生徒に「途中へこんだかもしれないが頑張れたのはなぜか？」、インタビューしてデータベース化して見ても良いのでは？
- ・ 一人ほおっておいてもらいたいとか逆にひとりぼっちは嫌など多様な生徒がいる。学校の中に多様な場があると良いと思う。勉強相談コーナー、コツを教えてくれるところ、初歩的などころを教えてくれる場所もほしい。
- ・ 親にとって、教育相談会、特定のテーマで語り合う会、聞きあう会など良いと思う。
- ・ 親も学校で子どもがどんな顔をしているのか興味がある。行事の写真などをブログ等で閲覧できるようになれば良い。親は自分の子どもを通じて学校に入っていくので、学校での写真とか作品とかを見る機会が増えれば親の学校との関わり方が変わってくる。